
5

章

各教科等の授業

高等学校には様々な教科があり、その教科ごとに、生徒に身に付けさせたい力が異なります。

5章では、各教科等でいま求められている授業のポイントを紹介し、理解を深めていきます。

1 国語

☆ねらいを定めて指導する

まずは、各科目が育成を目指す資質・能力を確認することが必要です。その上で、各自が担当する科目について、科目目標の実現に資する言語活動を設定する力が求められます。これらは教科会等で随時確認し、教員間で共通理解を図っておくと良いでしょう。「学習指導要領解説」には、指導事項に即した言語活動例も掲載されています。それらを参考に、科目のねらいに沿った授業づくりをしましょう。

☆専門力を高めるために

国語科教員としての専門力を高めるために実践していることを、先輩教員に聞きました。皆さんもできることから取り組みましょう。

- ▶ 週に一冊本を読む
- ▶ 読書記録を付ける
- ▶ 授業で扱う作家の作品集や、作品に係る評論等を読んでおく
- ▶ 定期的に図書館、文学館美術館等に出かける
- ▶ 研究会・部会に参加する
- ▶ 創作サークルに所属する
- ▶ 新聞記事に毎日目を通す
- ▶ 通勤中、ポスターや看板、チラシ等の表現をチェックする
- ▶ 他教科等の言語活動の様子を見学し、生徒の活動状況を観察する
- ▶ 考えた単元構想を日頃からメモしておく

など

「言葉への自覚を高める」ための言語活動

場面や状況、伝える内容、そのときの相手への心情等に応じて、言葉や伝え方は使い分けられます。

国語の授業づくりには、言葉の表現意図や効果、文化的背景等について「考え」「気付く」ことができる工夫が必要です。言語活動を通して、生徒が言葉への自覚を高められるようにしましょう。

国語科教員に必要な専門力

所属校の教育活動全体において、国語教育が重要な役割を担うことは言うまでもありません。そのため、国語科の教員には様々な専門力が求められます。いくつか例を挙げてみます。

- 素材（文章、図表、資料など）自体の読解力、分析力
- 素材の背景にある文化・社会的背景に対する知識・理解
- 生徒の実態を的確に見取る力
- 身に付けさせたい資質・能力の育成に適した言語活動を設定する力
- 指導事項と生徒の実態に適した素材を選択する力
- 選択した素材を言語活動に合わせて教材に変える力
- 実践した指導の結果を適切に評価する力 など

これらの力は一朝一夕に身に付くものではありません。国語科教員に必要な専門力を少しずつ高めるために、学び続けましょう。

一つの単元で学ぶ領域を一つに絞る

国語の資質・能力のうち「思考力、判断力、表現力等」は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三つの領域に分けられますが、複数の領域の指導を一つの単元に詰め込むと、どのような資質・能力を身に付けさせようとしているか、生徒に伝わりにくくなってしまいます。「一単元一領域」の原則に沿って授業づくりをすることで、指導のねらいを絞って教育効果を高めましょう。

このとき注意すべきことは、

指導する領域と言語活動は一致するとは限らない

ということです。教材の内容理解を深めるための話し合いならば「読むこと」の指導になります。目標に資する活動にするためにも、「この言語活動はこの領域の力を身に付けさせる活動として適切か」を常に自問しながら言語活動を設定しましょう。

<例> 資質・能力ベースの「言語文化」の授業

目標とする資質・能力によって単元指導計画は異なります。例として「羅生門」を用いた指導計画を紹介します。 → 1章-2

目標とする 資質・能力

作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。(B読むこと(1)イ)

「問い」

下人には、なぜ名がないのか。

言語活動

- ① 通読後、「問い」について考えをまとめる。 [個人]
- ② 「羅生門」の内容を確認する。 [全体]
- ③ 草稿段階では「交野平六」等の名が付いていたことを知る。
- ④ ②③を踏まえ、「問い」について再考する。 [個人]
- ⑤ グループで④を共有し、他者の分析の視点を知る [グループ]
- ⑥ 「問い」に対する自身の最終的な考えを、本文の描写を根拠にしてまとめる。 [個人]

振り返り

単元の活動を通して、自分にどのような考え方が身に付いたか分析してまとめる。

目標とする 資質・能力

作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。(B読むこと(1)工)

「問い」

芥川龍之介は、どのような効果をねらって元の作品を改変したのか。

言語活動

- ① 「羅生門」の内容を確認する。 [全体]
- ② 「今昔物語集」巻二十九第十八話、巻三十一第三十一話と比較して相違点を挙げる。 [個人]
- ③ ②をグループで共有し、作者が改変した理由を考察する。 [グループ]
- ④ グループでまとめた考察を全体で共有する。 [全体]
- ⑤ 「問い」について個人で考察する。改変部分のうち一点以上を取り上げて、改変によって得られた効果をまとめる。 [個人]

振り返り

改変部分を意識しながら「羅生門」を読み返して、新たに気付いたことをまとめる。

留意点：

これらで行われている言語活動は「話し合い」活動と「書く」活動ですが、いずれも「読む」力の育成をねらいとした活動であるため「読むこと」の領域で評価します。

☆国語における「問い」

同じ教材文でも異なる資質・能力に働きかけることができる国語の授業にとって、目標とする資質・能力に沿った「問い」を立て、生徒に提示することは非常に重要です。

「問い」を提示されることで、生徒はどのような表現に注目して作品と向き合えばよいか、単元のゴールは何かを知ることができるため、学習の見通しが立てやすくなり、生徒の「主体的な学び」の実現にもつながります。

国語が「言葉への自覚を高める」ことを目指していることを念頭に置いて、「問い」を設定しましょう。

☆「古典を学ぶ意義」

今を生きる生徒がなぜ古典教材を学ぶのでしょうか。授業で古典を扱う際には、生徒自身が古典を学ぶ意義について「考え」「気付く」ことができるように、

▶ 先人のものの見方・考え方に触れ、生徒自身の経験や考えと比較しながら考えを広げたり、深めたりする。

▶ 原文を題材とした文章(解説や評論等)を副教材として活用する。

といった活動を効果的に取り入れた授業づくりをすることが大切です。

そのためにも、古典を学ぶ意義について、まず教員自身が見解を確立しておくことが求められます。

2 地理歴史・公民

「地理歴史・公民」の学習とは

「地歴・公民の学習とは暗記ですか。」と生徒に問われたことはありませんか。学習指導要領には、生徒に身に付けさせるべき「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」が、単元ごとに明記されています。生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するには、授業で地理歴史科・公民科における「社会的な見方・考え方」を働かせる問いを、単元を見通して立てる必要があります。

適切な問いを立てよう！

適切な問いを立てるためには、単元ごとに教科書や学習指導要領解説にある問いの例を確認し、学習内容を整理する必要があります。教科書には、単元を貫く問い（単元を通して考える問い、本時の問いを積み重ねて考える問いと言える）、本時の問い（毎時間の授業を通して考える問い）に該当する問いが記載されているため、内容の精選にも役立つはずです。

なお、単元を貫く問いと本時の問いの一例を次に示します。

科目名	「公共」
単元名	法的な主体となる私たち
単元を貫く問い	権利が保障されるよりよい社会をつくるために、私たちはどうすればよいのか。
本時の問い	1次 法とは何か。 2次 自由はどこまで認められるのだろうか。 3次 社会の不平等はなぜなくなるのか。 4次 新しい人権はなぜ必要となったのか。 5次 なぜ司法は必要なのか、市民が司法に参加する意義は何か。 6次 成年（18歳）になったらできること、気を付けなくてはいけないことは何だろうか。
単元のまとめ	7次 本単元で学んできたことを生かし単元を貫く問いについて自らの考えを論述する。

出典：『神奈川県立高等学校等学習評価の手引き』
神奈川県教育委員会 令和4年3月

こうした問いを基に学習内容を整理した上で、生徒の実態を踏まえてより適切な問いとなるように調整しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現していきましょう。

地理歴史・公民の授業づくりのポイントについて

地理に関する科目

共通必修科目である「地理総合」について、三つの大項目（以下のA～C）の中から、それぞれ特徴的な内容を紹介します。

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界

＜地図や地理情報システムと現代世界＞ 地理情報システム（GIS）の活用を通して、地理的技能の習得及び地理学習への意欲向上をねらいます。まずは教員がGISに触れ、理解を深めることが大切です。GISは、地理院地図や地図太郎、RESAS等が挙げられます。主題図の作成等、具体的な活動を伴う学習展開が考えられます。



【地理院地図の使い方】

B 国際理解と国際協力

＜地球的課題と国際協力＞ この項目では、「持続可能な開発目標（SDGs）」について理解を深めることが大切です。各国の取組を踏まえ、生徒一人ひとりが実施できることを追究する等の学習展開が考えられます。



【SDGs CLUB】

C 持続可能な地域づくりと私たち

＜自然環境と防災＞ 災害には、地域性があります。地域性や生徒の生活圏を踏まえた上で、災害の傾向や防災の取組を追究する等の学習展開が考えられます。

歴史に関する科目

歴史の授業は、「何が起こったか」を学習することが多かったことと思います。しかし、重要なのは「なぜ起こったか」を学ぶことです。授業づくりで大切にしてほしいことは、「なぜ」を意識した良質な問いの設定です。問いには、調べれば分かる「知識を問う問い」と、知識と知識の関係を問うなどのより高次の「思考を要する問い」があります。前者は一斉講義や個別学習で生徒が答えを出せますが、後者の問いに答えられる力を生徒が身に付けるためには、授業形態やツールの工夫が必要です。資料を読み取って自分の考えを言語化したり、グループで意見交換・発表したり、ICT機器を用いて生徒一人ひとりの考えを全員で共有したりと、様々な工夫が考えられます。

「歴史総合」では、生徒が学習した知識を活用して思考を深める授業、生徒が主体的に取り組む授業が求められています。生徒がいつ何をどう学んだらよいか、年間指導計画で位置付け、問いを立てて単元を構想しましょう。担当間での相談や共有も必須です。

「なぜ」を大切に、授業づくりに取り組みましょう。

公民に関する科目

公民の授業では、より多くの生徒が当事者意識を持つことができる社会問題を適切に選び、授業づくりをしていくことが大切です。そのためには、世の中の動きを常に意識するとともに、目の前の生徒が何に興味を持っているのか、何を知っているのかなど、生徒の実態を把握することに努めましょう。

共通必修科目である「公共」では、「人間と社会のあり方についての見方・考え方」を働かせながら、考察や追究を行うことがさらに重要となります。大項目AからCへと学習を進める中で、教員が立てた問いを考察・追究する学習活動から、生徒自身が課題を見だし、協働しながら探究する活動を展開していくことが求められています。

また、選挙権年齢が18歳に引き下げられたのに続き、成年年齢が18歳になりました。政治参加教育・消費者教育・金融教育・法教育などの重要性はますます高くなっています。

公民科の授業は、人間と社会のあり方を体系的に学ぶ大事な機会となります。教員も人間と社会をみるバランス感覚を養いながら、使命感を持って授業づくりに取り組みましょう。

3 数学

資質・能力を育成するための「数学的活動」

生徒が自らの人生や新しい社会を切り拓いていくためには、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察するなど、数学的に考える資質・能力を育成することが求められています。そのためには、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して学習を展開することが重要です。

数学的活動とは

数学的活動とは、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること」です。これには、主に二つの過程が考えられます(図)。

- 「日常生活や社会の事象」から考える問題発見・解決の過程(A1 → B → C → D1)

日常生活や社会の事象などを数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する過程
- 「数学の事象」から考える問題発見・解決の過程(A2 → B → C → D2)

数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的、体系的に考察する過程

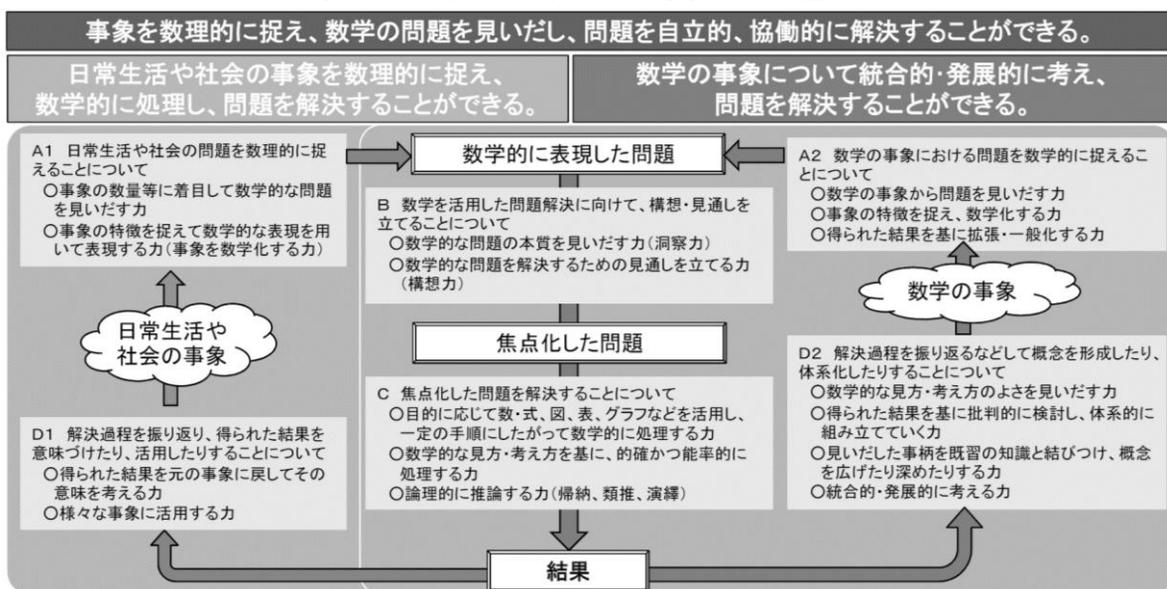


図 算数・数学における問題発見・解決の過程と育成を目指す資質・能力(の一部)
教育課程部会 算数・数学ワーキンググループ 平成28年「算数・数学ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて(報告)」より抜粋

生徒の数学的活動を促す手立ての一つとして、発問の工夫が挙げられます。教員の発問を通して、数学における問題発見・解決ができるようになることが重要です。→3章-1

数学的活動の充実

数学的活動を充実させるために、発問をはじめとした工夫の例を紹介します。

「数学Ⅰ」二次関数

<p style="text-align: center;">発問・指示</p> <p>「商品を売るとき、一般に、商品の価格が上がると販売数は減ります。つまり、商品の価格によって売上金額も変化します。このとき、商品の価格はどのように決めればいいのでしょうか？」</p>	<p style="text-align: center;">指導の工夫、問題発見・解決の過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の目的意識が高められるような発問をする <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">A1：日常生活や社会の問題を数理的に捉える</p> </div>																		
<p>【問題】文化祭でジュースを販売し、その売上金額を寄付することにした。過去の販売データによると、ジュース1本の値段（以下、「単価」という）を90円にした場合、1日に300本売れた。また、単価を10円ごとに上げると、1日の販売数が20本ずつ減るといふ。売上金額を最大にするためには、単価を何円にすればよieldらうか。ただし、単価は90円以上とする。</p>																			
<p>「問題を解決するために活用できそうな条件は何でしょうか？」 「下表の空欄に、どのような値が入るのでしょうか？」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 2px;">単価の増加量</td> <td style="padding: 2px;">10円</td> <td style="padding: 2px;">20円</td> <td style="padding: 2px;">30円</td> <td style="padding: 2px;">…</td> <td style="padding: 2px;">10x円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">単価</td> <td style="padding: 2px;">100</td> <td style="padding: 2px;">110</td> <td style="padding: 2px;"></td> <td style="padding: 2px;">…</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">販売数</td> <td style="padding: 2px;">280</td> <td style="padding: 2px;"></td> <td style="padding: 2px;"></td> <td style="padding: 2px;">…</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> </table> <p>「ここまでで分かったことを踏まえて、売上金額をxを用いて表すとどうなるのでしょうか？」 「xにはどのような条件があるのでしょうか？」</p>	単価の増加量	10円	20円	30円	…	10x円	単価	100	110		…		販売数	280			…		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">B：数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てる</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・つまずいている生徒に対して、表などを用いて単価や販売数を具体的に考えさせて思考を促す <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">C：焦点化した問題を解決する（グラフなどの活用）</p> </div>
単価の増加量	10円	20円	30円	…	10x円														
単価	100	110		…															
販売数	280			…															
<p>単価を10x円値上げしたときの売上金額をy円とする。 $y = (90 + 10x)(300 - 20x) \quad (0 \leq x \leq 15)$ 上の二次関数の最大値と、そのときのxの値を求め、売上金額が最大になるような単価を求め。</p>																			
<p>「これまでに学習したことを、どのように活用しましたか？自分の解き方を隣の人に説明してください。」 「分からなかったり、間違えたりした場合は、その理由を隣の人に説明してください。」</p> <p>「この問題を通して、新たに気付いたことは何ですか？さらに発展して考えてみたいことは何ですか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な表現を用いて論理的に説明する場面を設け、対話的な学びを実現する → 2章-5 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">D1：解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり活用したりする</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら新たな問いを見いだすことができるように発問する 																		
<p>【生徒の回答例】単価の増加と販売数の減少の関係を一次関数で表すことができれば、二次関数を活用することで、売上金額の最大値が求められる場合があることに気付いた。上の問題において、単価を5円上げると、1日の販売数が10本ずつ減る場合、売上金額の最大値や単価に変化があるのか考えたい。</p>																			
<p>「（生徒の回答例に対して）自分で見いだした問題の結果を予想するには、どうすればいいですか？」</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【生徒の学習活動例】ICTを活用する。</p> </div> <p>「今日の学習を通して重要だと感じた点はどこですか？難しく感じた点はどこですか？それを踏まえて、今後の学習で取り組みたいことを具体的に書きましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを用いて多面的に考察する場面を設ける → 3章-5 ・生徒が自らの学習を調整できるような振り返りを促す 																		

事象を数学的に表現するために描画ソフトを活用しよう

主なフリー描画ソフト（令和7年1月時点）は次のとおりです。

- ・GeoGebra …幾何学、代数学、表計算、グラフ作成、統計学、微積分等をまとめた数学ソフトウェア
- ・GRAPES-light …関数によるグラフや軌跡を描画するソフトウェア
- ・desmos …グラフ計算・科学計算・3D計算・幾何学計算機能ツール

GeoGebra



GRAPES

-light



desmos



4 理科

☆理数探究

各学科に共通する教科「理数」では、探究すること(プロセス)を重視しており、失敗してもその原因について考えたり、再チャレンジしたりする資質・能力の育成を重視しています。『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説理数編』(39~44ページ)の「探究的な学習の指導のポイント」は理科の授業や総合的な探究の時間の指導にも生かせる内容となっています。

☆小学校・中学校理科と高等学校理科との対応

小学校・中学校理科と高等学校理科の内容の対応は、「エネルギー」と「物理」「粒子」と「化学」「生命」と「生物」「地球」と「地学」となっています。

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説理科編 理数編』(16~19ページ)に記載されている、内容の構成表を参考にしてください。

「探究の過程」を意識する

科学は、自然の事物・現象に対する気付きから仮説を設定し、観察・実験により仮説の妥当性を検証することを繰り返して体系化されてきた学問です。授業の学習過程でも、課題の把握(発見)、課題の探究(追究)、課題の解決という「探究の過程」を意識した学習活動を行い、生徒が主体的に取り組めるようになることを目指しましょう。その際、授業においては、次の例のように、「探究の過程」の一部を取り扱うことも可能です。

例1) プラスチックの種類を決定するための実験を計画する

「科学と人間生活」において、プラスチックの種類についての知識を学んだあとで、種類の分からないプラスチック片について、どのような実験を行えば種類が特定できるかを考える。

例2) DNAが遺伝子の本体であることを実験結果から説明する

「生物基礎」において、実験方法とその結果をまとめた資料を基に、結果を分析・解釈し、他者に説明する。

理科の各領域における特徴的な「見方」

理科においては、構成する領域ごとに特徴的な「見方」(視点)があります。

領域	特徴的な見方(高等学校)
エネルギー	自然の事物・現象を「見える(可視)~見えない(不可視)レベル」において、主として量的・関係的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える。
粒子	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える。
生命	生命に関する自然の事物・現象を「分子~細胞~個体~生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える。
地球	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)~地球(地球周辺)~宇宙レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える。

※特徴的な見方(視点)は領域固有のものではなく、これら以外にも、定性と定量、全体と部分、構造と働きなどもあることに注意する。

授業づくりのワンポイントアドバイス(分野別)

観察・実験は、特に安全に配慮して行ってください。各分野の授業づくりのワンポイントアドバイスは次のとおりです。

物理分野

物理で学習する事柄と生徒の日常生活や身近な現象とを関連付けさせることによって、学びの実感を高めさせることが大切です。

また、実験やシミュレーションを活用して視覚的・体験的に学ぶ機会を提供することで、生徒の興味や関心を引き出し学習効果を高め深い学びにつなげることができます。

さらに、生徒が自ら考え探究する力を養うために基礎から応用まで段階的に指導することを心掛けましょう。

化学分野

物質やその変化の内容を扱うときは、生徒にとって身近な例を挙げるなどして日常生活との関連を図るとよいでしょう。その際、単元を貫く問いなどを準備するとより効果的です。また、例えば状態変化において、粒子間の距離に基づいた性質の違いを説明させるなどの「粒子」を意識した授業づくりも大切です。

化学実験で扱う器具の操作方法、薬品の取り扱い方については、必ず予備実験を行って確認し、生徒の動きを想定して準備をしてください。日頃から安全への意識を高めるような指導を心掛けましょう。

生物分野

生徒の自然体験は一人ひとり大きく異なります。生徒が身近な生物や事象と学習内容のつながりを実感できるよう、授業では季節や地域の実態などに応じて、実物、映像、写真等を用いることを心掛けましょう。

また、用語の記憶を重視する授業展開でなく、生徒自身が様々な課題に対して思考する場面をつくることを心掛けましょう。

地学分野

地学で扱う題材は、時間経過や空間の広がり、我々の人生から比べると雄大なものが多いです。地学的な事象を実感するためには、現実に行っている気象・地震・火山・天体現象を扱ったり、コンピューターシミュレーション等を行うとよいでしょう。

また、岩石などは実物に触れるようにすると、理解が深まります。ただし、屋外での実習を行う前には、現場の安全性を十分確認しましょう。

☆理科を学ぶことの意義

令和4年に実施した全国学力・学習状況調査(中学3年生対象)において、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに肯定的な回答が61.8%、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」の問いに肯定的な回答が22.6%という結果になっています。

理科の授業の中において、理科を学ぶことの有用性及び実社会・実生活との関連を意識することが求められています。

朝永 振一郎の言葉
(物理学者。1965年にノーベル物理学賞を受賞。)
「ふしぎだと思うこと
これが科学の芽です
よく観察してたしかめ
そして考えること
これが科学の茎です
そうして最後になぞが
とける
これが科学の花です」

トーマス・エジソンの言葉
「私は実験において失敗
など一度たりともして
いない。
電球は光らないという
発見を、今までに2万
回してきたのだ。」

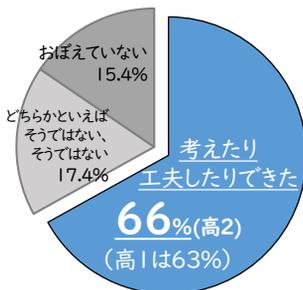


5 保健体育

☆「保健」の現状と課題

「保健」の授業の現状として、「思考力、判断力、表現力等」を育成するための学習活動を取り入れた授業は十分な実施状況にはないようです。

例えば、(公財)日本学校保健会保健教育推進委員会が令和3年に実施した全国調査では、このような結果が出ています。



高校3年生において、高1と高2の保健の授業で「考えたり工夫したりできた」と回答した生徒は63%と66%にとどまっています。

また、「保健」の課題として、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要だといわれています。

単元の指導計画や授業の目標を踏まえて、「知識」の内容に偏った指導ではなく、生徒の「思考力、判断力、表現力等」を育成するための学習活動を積極的に取り入れた授業実践を進めていきましょう。

「保健」 「生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力の育成」

【ポイント】 「小・中・高」の学びの系統性を踏まえ…

★個人及び社会生活に関する事項を正しく理解し、思考・判断・表現できるようにする！！

●「小・中・高」の学びの系統性とは…

・小学校→身近な生活における健康・安全に関する内容

より実践的に

・中学校→個人生活における健康・安全に関する内容

より科学的に

・高等学校→個人及び社会生活における健康・安全に関する内容

より総合的に

個人生活のみならず社会生活との関わりを踏まえた保健の授業づくりを目指しましょう！



「思考力、判断力、表現力等の育成を目指した学習指導の例」

○単元：「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」

〈ねらい〉

喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を客観的に評価し改善策を考える。

〈発問〉 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、これからの防止対策を考えよう！

- ・学習活動1 個人や社会環境に対して、諸外国はどのような対策を講じているか調べてみよう。
⇒ICTを活用して調べ学習をする。
- ・学習活動2 日本の対策について、根拠を示して評価しよう。
⇒クラウド上で他グループ等と意見交換をする。
- ・学習活動3 科学的データや諸外国の対策等を参考にしながら、日本の対策を改善し、よりよい方策を考えて発表しよう。
⇒プレゼンテーションソフトを使い、ポンチ絵等を作成し発表する。
⇒クラウド上で他グループ等と意見交換をする。



※「思考力、判断力、表現力等」は、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」の例示を参考にして、生徒が主体的に学べるような、具体的な学習活動等を考えましょう。

「体育」

「生涯にわたる豊かなスポーツライフの継続と、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力の育成」

【ポイント】改訂の要点である「共生」の視点を踏まえ…

★体力や技能の程度、性別や障がいの有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を卒業後も継続して社会で実践することができるようにする！！

●社会に出た後のスポーツ活動を考えてみると…

- ・「競技として極めていきたい」
 - ・「健康づくりのために運動する」
 - ・「家族や仲間と親睦を深めるためにやりたい」など
- 運動やスポーツを行う
目的も多様である

「共生」の視点を踏まえ、教師として「何ができるか」、
「どのように工夫したらできるか」を考えることが大切です！

≪生徒の技能の程度に応じてルールを工夫した学習指導の例≫

○単元「球技」（ネット型：バレーボール）

〈ねらい〉

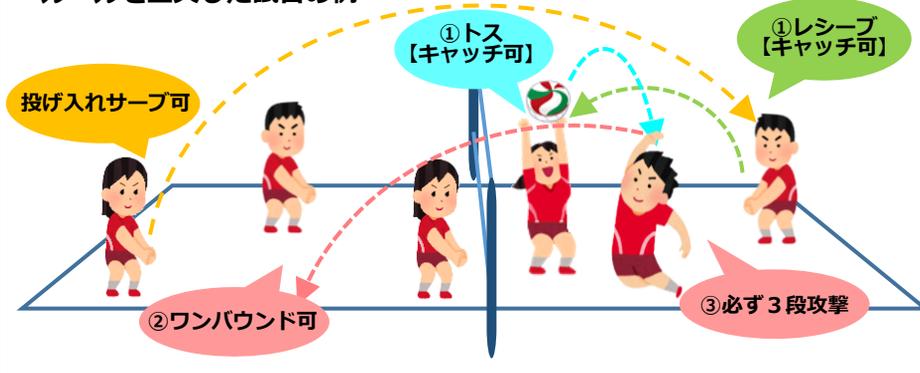
作戦に応じた技能で、仲間と連携してゲームを展開する。

正規のルールを緩和することで、技能の程度にかかわらず、チーム全員が仲間と連携した動きによって攻防を楽しむことができるようにする。

～ルール緩和の例～

- 【人数】（例）三人対三人など、少ない人数にして活躍する機会を増やす。
- 【用具】（例）ソフトバレーボールなど、柔らかく操作しやすいボールを選ぶ。
- 【コート】（例）ネットの高さを低くしたり、コートの広さを狭くしたりするなど、プレイしやすいコートを選ぶ。
- 【ルール】
 - （例）①三回の触球のうち、一回はキャッチをしてもよいこととする。
→「学習課題は何か」を整理し、生徒の課題に応じて選択させる。
 - ・レシーブをキャッチ = 学習課題：「トス、スパイク」
 - ・セッターをキャッチ = 学習課題：「レシーブ、スパイク」
 - ②相手コートからの返球は、ワンバウンドしてもよいこととする。
 - ③攻撃は必ず3段攻撃とする。ブロックはしないこととする。

～ルールを工夫した試合の例～



☆「共生」の視点について

豊かなスポーツライフを継続していくためには、運動の技能を高めていくことのみならず、体力や技能の程度、性別や障がいの有無、目的等の違いを越えて、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することが求められています。

そのため、原則として「**男女共習で学習を行うこと**」が求められています。

「共に学ぶ体育授業」を実現するために、このような考え方で取り組んでみませんか？

- ・「男子が物足りないと感じる」
- ・「体力や技能に差があって指導が難しい」
- 「性別による違い」ではなく、「個による違い」と捉える。

- ・「男子が遠慮する、また女子が委縮する」
- ・「異性に対する意識」
- 意義や求められる背景などについて生徒に丁寧に説明をし、共に学ぶ雰囲気教師がつくっていく など

また、心身ともに発達が著しい時期であることを踏まえ、運動種目によってはペアやグループの編成時に配慮したり、健康・安全に関する指導の充実を図ることも大切です。

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成に向けて、運動やスポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することができるような授業にしましょう。

※総合教育センター体育指導センターでは、授業づくりの参考となる各校種のハンドブックを作成しました。次の二次元コードよりアクセスできますので、単元の構想や授業づくりの参考として御一読ください。



6 芸術

☆「音楽的な見方・考え方」を働かせて授業に取り組んでいる例

①

楽曲を歌うと、この部分、「心から訴えている」ように感じる…なぜだろう？



「強弱」に着目してみよう…

②

そうか！この「ピアノッシモ」がそう感じさせているんだ！曲や歌詞の流れから考えても納得！



歌って試してみよう！

Point!

③

うーん、なんかしっくりこない…「ピアノッシモ」って「とても弱く」って意味でしょ。ただ音量を変えるだけじゃあの感じが出てない気がする…



発声練習をいかにして「子音をはっきり聞こえるように」歌ってみよう

さっきより「心から訴えている」感じが出る気がする！はっきりと言葉を発音することを意識して歌ってみよう！



他の人はどんな歌い方をしているんだろう…

他の国の言語や時代によって印象は変わるのかな…

ねらいに沿った学習活動へ…

あなたにとっての芸術とは

影響を受けた芸術家(作曲家、画家、書家等)は誰ですか？

心を揺さぶられた作品(芸術的体験)はどのようなものですか？

生徒にとって芸術科の教員は、最も身近な芸術家であるとともに、味わい方の伝道者でもあります。日常的に、芸術を愛好し芸術文化を尊重している教員の姿から、生徒たちは何かを感じています。

芸術科が大切にしたいこと

高等学校芸術科では、芸術文化に対する理解を深め、愛着を持つとともに、一人ひとりがそれぞれの興味・関心や個性をいかし、感性を高め、芸術と幅広く、かつ多様な観点から主体的に関わっていくことが重要です。学校を卒業した後も、社会とのつながりの中で芸術を愛好し、生涯にわたり豊かな情操を持ち、芸術文化を尊重する態度の育成を目指していくことが大切です。

「見方・考え方」と「感性」

芸術科における「見方・考え方」の重要な点は、知性と感性を相互に働かせて対象や事象を捉えることです。そのためには、効果的な活動が不可欠です。

知性だけでは捉えられないことを、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていくこと、客観的事実と感情とを往還させて考えることは、他教科等以上に芸術科が担っている学びです。また、多様性の包摂、柔軟な発想や他者との協働、自己表現とともに自己を形成していくことなども含まれており、そこにも、芸術を学ぶ意義や必要性があります。

また、特に重要な「感性」の働きは、感じるという受動的な面だけではありません。感じ取って自己を形成していくこと、新しい意味や価値を創造していくことなども含めて「感性」の働きです。

そして、「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものです。芸術科は、生徒たちの創造性を育む上で大切な役割を担っているのです。

音楽的な見方・考え方	造形的な見方・考え方	書に関する見方・考え方
①感性を働かせること	①感性や美意識、想像力を働かせること	①感性を働かせること
②音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えること	②対象や事象を、造形的な視点で捉えること	②書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉えること
③捉えたことを、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること	③自分としての意味や価値をつくりだすこと	③書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、意味や価値を見いだすこと

芸術科の授業でおさえるべきこと (教材研究、安全指導は必須！)

①芸術科における技能とは

「～が上手」というような単なる技術の巧拙ではなく、意図に基づいて表現するための技能であることに留意する必要があります。

②生徒が表現意図を持つために

主題の設定や作品の鑑賞、作品の様々な背景に触れるなど、題材(書道は単元)計画を工夫することで、「〇〇を△△のように表現したい」という気持ちを引き出すことができます。

③題材(単元)同士を連結させましょう

一つの題材(単元)の学びが独立して閉じてしまうのではなく、一年間を通した学びとなるよう関連付けましょう。そのことによって、学習の質を高めることができます。

④学んだことの意義が実感できるように

演奏発表会や作品の展示、掲示物を作成するなどして、芸術科の見方・考え方が、生活や社会の中で活用できることを体験させましょう。

美術科の授業例

美術 I 「A表現(1) 絵画・彫刻」、「B鑑賞」及び〔共通事項〕

〈題材名〉 心の形(石材による抽象彫刻)

〈題材の目標〉 「心の形」というテーマを基に、自己の内面を深く見つめ、主題を生成し、造形的な効果をいかし創造的に表現するとともに、他の生徒の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう

導入

学びの見通しを持たせるために、授業の流れを示しましょう。自己の内面を見つめて、主体的に表現活動や鑑賞の創造活動に取り組めるよう、授業の導入や展開を工夫しましょう。

発想や構想の活動 評価の観点【思考・判断・表現】

アイデアスケッチや言葉により、思いや考えを整理させ、**自分が表したい主題を生成**させることが重要です。また、石の特性の理解、単純化や強調など、主題を表現するための構想を練るよう、指導しましょう。

制作の活動 評価の観点【知識・技能】

「心のこもっていない、何を表現したいのか分からない作品」には感動が伴いません。**自分が表したいイメージを具現化**させるために、本当にこの形で良いのかと**主題を追求**させましょう。道具の特性の理解も大切です。

鑑賞の活動 評価の観点【思考・判断・表現 / 知識】

鑑賞も創造活動です。作品に対して、自分としての意味や価値をつくりだすよう指導しましょう。また、**根拠を持って互いに批評し合う活動**を通して、自他の特性や個性について理解を深めさせるよう配慮しましょう。

導入～鑑賞の活動まで 評価の観点【主体的に学習に取り組む態度】

自分が表したい主題を明確に持ち、イメージを具現化することを重視して表現します。また、他者から承認される鑑賞の活動を行うことにより、自己肯定感を高めます。

表現と鑑賞の活動を通して、美しいものやより良いものを求めていこうとする豊かな情操を養います。



7 外国語（英語）

「言語活動を通して」資質・能力を育成

外国語科の目標は、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動**及びこれらを結び付けた**統合的な言語活動を通して**、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりする**コミュニケーション**を図る資質・能力を育成すること」、つまり、実際に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を通じた資質・能力の育成が求められています。

英語で「聞く／読む／話す／書く」とは、単純に聞いたり読んだりした英語を日本語に置き換えたり、ただ英語が口から出てきたり、書いたりすることではありません。適切な支援を行った上で、英語を使って内容を理解したりメッセージを伝え合ったりする活動＝**言語活動**を授業内で効果的に実施するようにしましょう。

目的や場面、状況などに応じて

外国語科における「知識及び技能」の育成は、「外国語の音声や語彙、文法、言語の働きなどの理解を深める」という「知識」の面と、その知識を「実際のコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる」という「技能」の面とで構成されています。また「思考力、判断力、表現力等」の育成のためには、知識及び技能を活用して、**コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて**、概要や要点、意図などを的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う必要があります。

文法など言語材料の指導に当たっては、「**コミュニケーションを支えるもの**」であることを踏まえ、文脈から切り離された知識として理解させるのではなく、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できるよう指導することが必要です。実際の指導においては、実際のコミュニケーションにおけるその文法事項の活用の必然性に生徒が気付くような指導を行うようにしましょう。

4 技能 5 領域の指導と評価

外国語科の目標は、聞くこと(L)、読むこと(R)、話すこと[やり取り](SI)、話すこと[発表](SP)、書くこと(W)の5領域別に設定されており、評価も5領域別に行います。L、Rについてはペーパーテストで評価することができますが、**SI、SP、Wの評価についてはパフォーマンステストの実施が不可欠**です。年間でバランスよく指導と評価ができるよう、年間を通じた計画作成を心掛けましょう。各単元では、単元目標とする領域を中心に、その他の領域もバランスよく扱いながら総合的に目標の達成を目指します。（右ページ参照）

外国語科教員は、**外国語の聞き方・読み方・話し方・書き方を、練習や言語活動を通してより良く・効果的に指導する技術**を持っていなければなりません。使命感を高く持ち、自己研鑽に励んでください。書籍や雑誌等を読み、第二言語習得理論（SLA）や指導法（TESOLなど）などについて学習し、言語指導に関する知識や技術の日常的なアップデートを心掛けましょう。

目標 (CAN-DO) から始まる授業づくり ～授業の Backward Design～



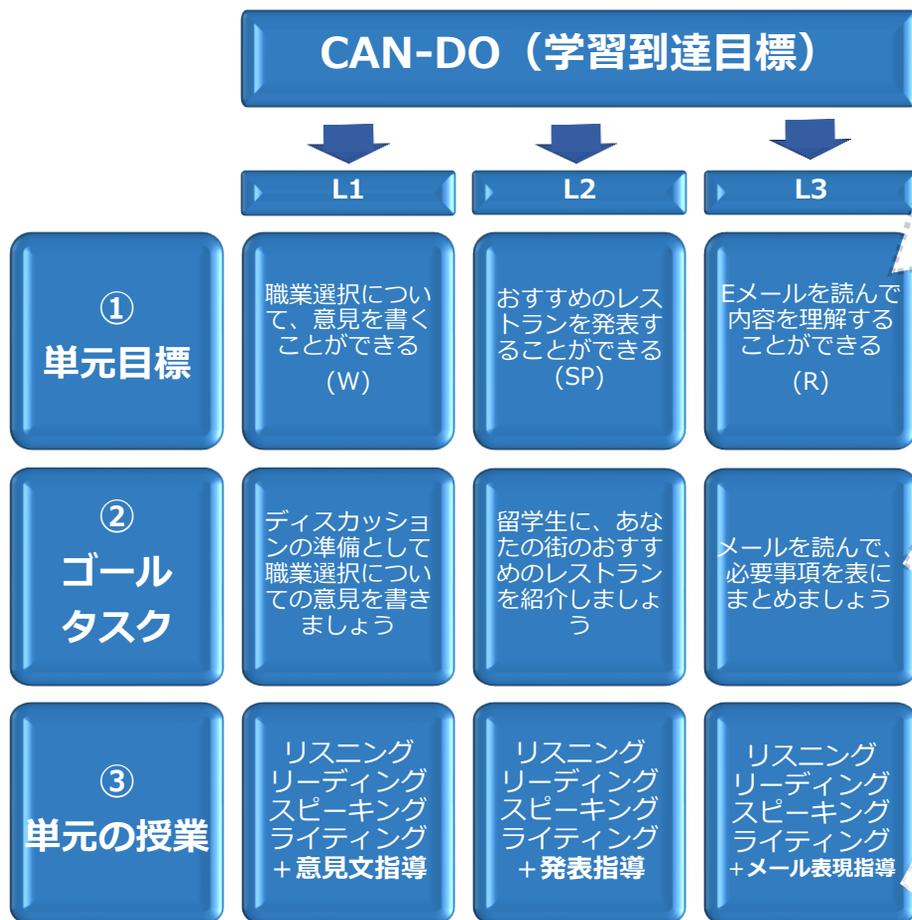
CAN-DOリスト

学年	聞くこと	読むこと	話すこと (発表・やり取り)	書くこと
1年	はっきりと話されれば、まとまった説明を聞いて、その概要やキーワードを聞き取ることができる。	学習を目的に書かれたまとまった英文を読んで、その概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表)前もって準備してあれば、身近なことについて、まとまった英語で話すことができる。 (やり取り)身近なことについて、簡単な英語でやり取りすることができる。	身近なことからについての説明や意見を、まとまった英文で書くことができる。
2年	はっきりと話されれば、まとまった説明やある程度継続する会話を聞いて、その概要や要点を聞き取ることができる。	学習を目的に書かれたやや長めの英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表)メモを見ながらであれば、読んだことについて、まとまった英語で話すことができる。 (やり取り)読んだり聞いたことについて、感想・意見を簡単な英語でやり取りすることができる。	読んだり聞いたりしたことについて、その概要や要点を自分の意見をまとまながら書くことができる。
3年	さまざまな場面で話される英語を聞いて、その概要や要点を聞き取ることができる。	さまざまなジャンルのまとまった英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表)メモを見ながらであれば、調べたことについて、まとまった英語で話すことができる。 (やり取り)あるテーマについて、簡単な英語で意見交換を続けることができる。	あるテーマについて、自分で書くことができる。

※各学校で設定します。必要に応じて見直しましょう。

- ・ CAN-DOが透けて見えるタスク、練習 (目的・ゴールの明確化)
- ・ それぞれの技能に寄与する語彙、文法の指導 (理解/表現のための言語知識)

「単元の指導と評価の計画」作成の考え方



単元目標は、「**年間のCAN-DOが具現化したもの**」になります。つまり、フォーカスしたスキル (一つか二つ) を意識して、5領域別に設定することが必要です。

単元のテキストタイプやジャンル・トピックに応じて、**その単元でフォーカスするスキル**を決めます。1単元の一つか二つのスキルでもOKですが、年間でバランスよく育成できるようにしましょう。

ゴールタスクとは、**単元の目標が達成できたかどうかを評価するためのツール**です。生徒の「思考・判断・表現」を評価するためのカギとなるのは、目的・場面・状況の設定です。実際のコミュニケーションを意識したタスクを実施しましょう。

単元の授業では、教科書本文を使用した4技能5領域の指導を、バランスよく行います。**教科書本文は4技能5領域の育成のために活用し、単元目標に基づくゴールタスクで確認する**、つまり教科書で練習して、ゴールタスクで応用力の腕試しをさせるという流れにしなければなりません。

8 家庭

☆「空間軸」と「時間軸」

個人から地域・社会へと視野を拓げていくという「空間軸」の捉え方により、社会から求められる課題への対応が可能となります。

また、過去から未来へという「時間軸」の捉え方で次世代を担う役割を自覚し、生涯を見通したキャリア教育にも通じる考え方が可能となります。

☆学習過程を踏まえた授業改善

生徒が家庭科の学習を学校の授業のみに終わらせるのではなく、常に課題を持って生活し、実生活へ生かすとともに、将来にわたって学び続けることができるよう、問題解決的な学習の充実に一層努める必要があります。そのためには、生徒が学習内容を自分事として捉え、課題を課題として認識し、その解決に向けて実践できるよう、日々の授業を工夫していくことが必要です。

家庭科の目標

学習指導要領の目標は「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す」です。

- (1)人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。（「知識及び技能」）
- (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。（「思考力、判断力、表現力等」）
- (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。（「学びに向かう力、人間性等」）

この目標は、家庭科で育成を目指す資質・能力を「資質・能力の三つの柱」に沿って示したものです。実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、これら三つの柱を相互に関連させることにより、家庭科全体の資質・能力を育成することが重要です。

家庭科における「見方・考え方」

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、

- 協力・協働
- 健康・快適・安全
- 生活文化の継承・創造
- 持続可能な社会の構築 等

の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

「見方・考え方」のそれぞれの視点は、相互に関わり合うものであり、生徒の発達の段階を踏まえるとともに、取り上げる内容や題材構成などによってどの視点を重視するのかを適切に定めることが大切です。

学習指導要領のポイント

小学校から高等学校までの学びの系統性を踏まえ、内容構成は次の四つに整理されています。

- A 「家族・家庭及び福祉」
- B 「衣食住」
- C 「消費生活・環境」
- D 「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」

「生涯の生活設計」について

まとめとしてだけでなく、科目の導入として位置付け、A～Cの内容と関連付けることで、生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫ができるようにする。

少子化の進展に対応して

「家庭基礎」…子育て支援、乳幼児と関わるための基礎的技能
「家庭総合」…子どもの遊びと文化、子育て支援、子どもの発達に応じた適切な関わり方の工夫をする。

高齢化の進展に対応して

高齢者の尊厳と介護（認知症を含む）に関する内容の充実を図る。
「家庭基礎」…高齢者の生活支援に関する基礎的な技能
「家庭総合」…高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技能

衣食住について

日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関わる内容の充実を図る。
→和食・和服・和室を扱う
「家庭基礎」…自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な内容
「家庭総合」…生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させることを重視

消費生活・環境について

成年年齢の引下げを踏まえ、契約の重要性や消費者保護の仕組みに関する内容を充実するなど、消費者被害の未然防止に資する内容の充実を図る。また、Cの内容については、原則として、入学年次または、入学年次の次の年次で取り上げること。

ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について

家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図った。家庭科の授業の一環として、年間指導計画に位置付けなければならない。

生活の科学的な理解を深め、生活の自立に向けて主体的に活用できる技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動を重視し、問題解決的な学習を充実していかなくてはなりません。

☆他教科とのつながり

家庭科の学習内容は生活全般にわたるので、他教科と関連する内容も多くあります。他教科と連携すると「内容が深まる」、「より理解しやすくなる」と感じたこともあるのではないのでしょうか。他教科と授業内容について情報交換し、よりよい授業を考えてみましょう。

☆地域とのつながり

乳幼児施設として保育所・子育て支援センター、児童関連施設として放課後児童クラブ、高齢者施設として特別養護老人ホーム・デイサービスセンター等があります。実習を行う際は、生徒の安全はもとより、乳幼児や児童、高齢者のプライバシーを含む相手に対する配慮や安全の確保に配慮し、生徒が自覚と責任を持って行動し、目的が効果的に達成できるよう留意しましょう。

【参考資料】

神奈川県健康医療局
「健康・未病学習教材（高校生用副教材）第四版」



くらし安全防災局くらし安全部消費生活課
「JUMP UP 消費者力を身につけよう！」等



9 情報

☆共通教科情報科の位置付け

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説情報編』には「共通教科情報科は、小・中・高等学校の各教科等の指導を通じて行われる情報教育の中核として位置付けられる。」と記載されています。

☆プログラミング教育の在り方

「小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について(議論の取りまとめ)」では、「プログラミング教育とは、子どもたちに、コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということを体験させながら、発達の段階に即して、次のような資質・能力を育成するもの」であるとしています。

【知識・技能】

- ・小学校
身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。
- ・中学校
社会におけるコンピュータの役割や影響を理解するとともに、簡単なプログラムを作成できるようにすること。
- ・高等学校
コンピュータの働きを科学的に理解するとともに、実際の問題解決にコンピュータを活用できるようにすること。

共通教科情報科の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。

情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるようにするとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付けるようにすることを示しています。

(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに、問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養うことを示しています。

(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養うことを示しています。「情報Ⅰ」では、この目標の実現を目指し、「情報Ⅱ」では、参画するだけでなく、発展に寄与することも求めています。

共通教科情報科における「主体的・対話的で深い学び」

主体的な学び

見通しを持って試行錯誤することを通して自らの情報活用を振り返り、評価・改善して、次の問題解決に取り組むことや、生徒に達成感を味わわせ学習に取り組む意欲を高めたり、個々の興味・関心や能力・適正に応じてより進んだ課題に取り組んだりすることなどであると考えられます。

対話的な学び

生徒が協働して問題の発見・解決に取り組んだり、互いに評価し合ったりして、情報技術のより効果的な活用を志向し探究したり、産業の現場など実社会の人々と関わるなどして現実の問題解決に情報技術を活用することの有効性を、実感を持って理解したりすることなどであると考えられます。

深い学び

具体的な問題の発見・解決に取り組むことを通して、日常生活においてそうした問題の発見・解決を行っていることを認識し、その過程や方法を意識して考えるとともに、その過程における情報技術の適切かつ効果的な活用を探究していく中で「見方・考え方」を豊かで確かなものとする、それとともに、情報技術を活用し、試行錯誤して目的を達成することにより、情報や情報技術等に関する概念化された知識、問題の発見・解決に情報技術を活用する力や情報社会との適切な関わりについて考え主体的に参画しようとする態度などといった資質・能力を獲得していくことであると考えられます。

科目「情報Ⅰ」の内容のまとめ

(1) 情報社会の問題解決

科目の導入として位置付け、(2)から(4)までの内容に結び付けられるようにするとともに、情報と情報技術を用いて、生徒が情報社会の問題を主体的に発見し、明確化し、解決策を考えられるようにする。

(2) コミュニケーションと情報デザイン

情報のデジタル化や、コミュニケーションとメディアの関係を理解し、情報の構造と関係性を適切に表現したデザインについて作成、評価、改善を繰り返すことで、情報伝達やコミュニケーションにおける問題を解決できるようになる。

(3) コンピュータとプログラミング

自然現象や社会現象の問題点を発見し、コンピュータやプログラミングを活用し解決策を考えられるようにする。

(4) 情報通信ネットワークとデータの活用

情報通信ネットワークの管理、運用ができ、データベースやWeb上のテキストデータ、オープンデータ等を可視化、分析する力を育成する。

☆中学校技術・家庭科 技術分野との関連

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説技術・家庭編』では、「情報活用能力を系統的に育成できるよう、プログラミングに関する学習やコンピュータの基本的な操作、発達の段階に応じた情報モラルの学習、さらに、社会科第5学年における情報化が社会や産業に与える影響についての学習も含めた小学校における学習を進展させるとともに、中学校の他教科等における情報教育及び高等学校における情報関係の科目との連携・接続に配慮する。」と記載されています。

☆他教科等との関連

高等学校段階における情報教育の実施を、共通教科情報科だけが担うというように、極めて限定的に捉えないようにしてください。教科等の特質に応じて教科等横断的に情報活用能力を身に付けさせる教育のより一層の充実が求められています。特に、統計の指導に当たっては数学科と、情報モラルなどの指導に当たっては公民科との関連を図りましょう。また、共通教科情報科の学びによって身に付けた能力や態度を他の教科・科目等の学習において積極的に活用していくことが重要です。

☆高等学校情報科に 関する特設ページ (文部科学省)



10 農業・工業・商業・水産・看護・福祉

☆各教科における
「見方・考え方」

農業



農業や農業関連産業に関する事象を、安定的な食料生産と環境保全及び資源活用等の視点で捉え、持続可能で創造的な農業や地域振興と関連付けること。

工業



ものづくりを、工業生産、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などに着目して捉え、新たな時代を切り拓く安全で安心な付加価値の高い創造的な製品や構造物などと関連付けること。

商業



企業活動に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、ビジネスの適切な展開と関連付けること。

水産



水産や海洋に関連する事象を、漁業生産や船舶運航、海洋工学、情報通信、資源増殖、水産食品の製造や流通、海洋の環境保全や活用などの視点で捉え、地域や社会の健全で持続的な発展と関連付けること。

見方・考え方を意識して指導する

「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」です。商業科を例にその重要性について考えてみましょう。

商業の「見方・考え方」は「**企業活動に関する事象を（中略）ビジネスの適切な展開と関連付ける**」とされ、様々な事象を「**企業側**」から捉えることが求められています。

例えば、「電子決済」について学ぶ単元で、ある生徒の授業後の振り返りの記述が次のようなものであったとします。

電子マネーのいいところや問題点が分かりました。
今使っている電子マネー以外にも試しに使ってみたいです。



この生徒は「**消費者側**」として授業内容を捉えており、教科を学ぶ本質である商業の「見方・考え方」（企業側から捉える）から離れています。「何のために商業を学ぶか」が把握できていなければ、この単元の目標はもとより、教科・科目の目標の実現も難しいでしょう。

それでは、振り返りの記述がどのようなものになっていれば、生徒が商業の「見方・考え方」を働かせたと言えるのでしょうか。例えば、次のような記述が考えられます。

事業者や消費者にとってのメリット・デメリットが分かりました。私が社長だったら、どの電子マネー決済を店舗に導入するかを考えていきたいです。



生徒が教科・科目を学ぶ「本質的な意義」の部分を読み外すことがないよう、教員は各教科の「見方・考え方」を意識した学習指導を心掛けていきましょう。

《他の例》

- ・ 共通教科「情報」と専門教科「情報代替科目」の違いは？
- ・ 共通教科「家庭」と農業科「食品製造や食品流通の分野」の違いは？
- ・ 共通教科「美術」と工業科「デザイン分野」の違いは？ など

見方・考え方を具体化してみよう

自身の教科の見方・考え方を具体化し、どのようにものごとを捉えられるか整理してみましょう。

商業の例：採算性（コスト、利益等）、利害関係者（株主、経営者、顧客等）、社会情勢、CSR等

思考・判断・表現の活動において見方・考え方を意識する（令和6年度高等学校教育課程研究会研究報告より）

①科目名：「ビジネス基礎」（商業科）

②単元名：企業活動の基礎

③単元の目標：

企業の形態と組織、マーケティングの重要性と流れなど企業活動に関する知識などを基盤として、企業活動の動向など科学的な根拠に基づいて、企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができる。

④見方・考え方の具体化：

- ・「組織の一員」…経営者、中間管理職、従業員などの視点
- ・「役割を果たす」…役割に応じた「働くやりがい」という視点

⑤単元を貫く問い：

企業における組織の一員としての役割を全うすることからくる「やりがい」は、役割によってどのような違いがあるだろうか。



身近な大人へ
インタビュー



インタビュー
結果のプレゼンテーション



全クラスメイトの
スライド資料を参照した上で、
レポート作成

・教科書内容に基づく質問
〇〇社は職能別組織の組織形態を採用しているみたいですが、□□さんは中間管理職としてどのように他部署と連絡調整を行っていますか？

・単元を貫く問いに基づく質問
□□さんは中間管理職としてどのようなときにどのようなやりがいを感じますか？

看護



健康に関する事象を、当事者の考えや状況、疾病や障害とその治療等が生活に与える影響に着目して捉え、当事者による自己管理を目指して、適切かつ効果的な看護と関連付けること。

福祉



生活に関する事象を、当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉と関連付けること。

☆神奈川県産業教育審議会「地域や社会の持続的な発展を担う産業人材育成のあり方について」報告（令和6年11月）

本県の専門高校及びデジタル社会の実現に向けた人材育成に関する現状と課題を踏まえた全体の方向性や、各専門学科の現状と課題を踏まえた今後の教育の方向性が示されている。



https://www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/senmon/2022-2024kennsannshinhou_ukoku.html

11 総合的な探究の時間

☆総合的な探究の時間の目標

総合的な探究の時間は、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、より良く課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目標にしています。

☆各教科・科目における探究との違い

総合的な探究の時間で行われる探究は、基本的に以下の三つの点において各教科・科目において行われる探究と異なっています。

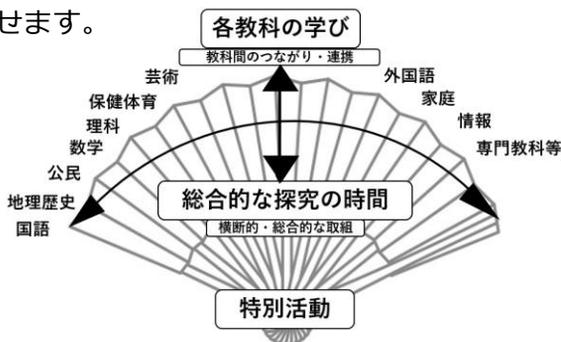
①学習の対象や領域は、特定の教科・科目等に留まらず横断的・総合的な点である。総合的な探究の時間は、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する事象を対象としている。

②複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせて探究する。(各教科・科目における探究は、基本的に理解をより深めることを目的に行われる)

③解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見いだすことを重視している。

各教科の学びと往還した探究の時間の展開

総合的な探究の時間では、横断的・総合的な学習を行う観点から、各教科・科目等で身に付けた資質・能力を適切に活用することが、総合的な探究の時間における探究活動を充実させることにつながります。次の図のように各教科・科目等で学んだことをいかし、総合的な探究の時間と往還させることで、生徒の学習は一層の深まりと広がりを見せます。



総合的な探究の時間につながる各教科での学習例

- ・資料活用の方をを生かして現地調査やインタビュー、文献調査などをして情報を収集する(地理歴史科・公民科)
- ・統計の手法でデータを整理して、効果的な図表で表す(数学科・情報科)
- ・複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりすることを生かして、論述し議論する(国語科)
- ・生物の多様性と生態等に関することを生かし、自然の事物・現象の変化とその要因とを関係付け、変化の要因を考えながら観察、実験などを計画的に行いつつ、地域の生態系の保全計画を立てる(理科)
- ・外国人観光客への案内、掲示やパンフレットの作成などで生かす(外国語科)
- ・地域のイベントへの参画において、ポスター、イラスト、マスコットなどを制作する(芸術科)

「伴走者」として寄り添い、支援する

総合的な探究の時間において、教員の在り方はとても重要です。次のような視点を持ち、伴走者として生徒に寄り添い、支援しましょう。

コーチング

要所要所で適切なアドバイスを行ったり、先々の見通しを考えるよう促したりするなど、伴走者としての意識を持って声をかけ、生徒の学習の質を高めて成長できるように支援しましょう。

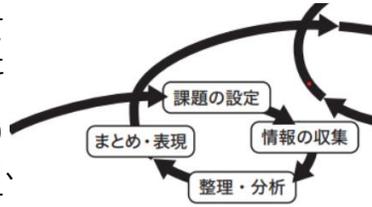
フィードバック

フィードバックで大切なことは、質(内容)とタイミングです。良質なフィードバックは学習者の内省(リフレクション)を高め、新たな問いと学習意欲を醸成していきます。

探究の過程

総合的な探究の時間における学習では、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていきます。学習過程を探究の過程とするためには、次の四つの過程が重要です。

この探究の過程は、いつも順序よく繰り返されるわけではなく、順序が前後したり、一つの活動の中に複数の過程が一体化して同時に行われることもあります。



☆問いを立てるための視点の例

- ① 言葉の意味や定義を問う「問い」
→○○の意味は？
- ② 原因(なぜ)を問う「問い」
→なぜ、生じているのか？
- ③ 信憑性を問う「問い」
→本当に生じているのか？
- ④ 比較を行う「問い」
→他国ではどのくらい進んでいるのか？
- ⑤ 先行研究・先行事例を問う「問い」
→○○に対してどのような取組が行われてきたのか？
- ⑥ 影響を問う「問い」
→○○によってどのようなことが起こるのか？

- ① 課題の設定 (例) どうしたら地域を活性化できるか
生徒が実社会や実生活と自己の関わりから、自ら課題意識を持ち、問いを見だし、探究課題を設定する。

★指導のポイント

- ・生徒が自分で課題を発見する過程を重視する
- ・十分な時間をかけて価値のある適切な課題を設定する

- ② 情報の収集 (例) 実際に町に出てインタビューする
課題解決に必要な情報を収集する。

★指導のポイント

- ・情報収集の目的を明確にして行わせる
- ・収集した情報を適切な方法で蓄積させる
- ・各教科等で身に付けた資質・能力を発揮して情報を収集させる

- ③ 整理・分析 (例) 情報を整理し、因果関係を導き出す
課題解決のために必要な根拠や理由となる情報を整理・分析する。

★指導のポイント

- ・「考えるための技法」を意識させる
- ・様々な教科等での学習成果を生かすように促す
- ・課題解決や探究活動の過程を振り返らせ、自分の取組と設定した課題との整合性を点検させる

- ④ まとめ・表現 (例) ポスター形式でまとめ・表現する
探究課題から結論までを自分自身の考えとしてまとめ、表現する。
自らの考えや課題を振り返り、次の探究へとつなげる。

★指導のポイント

- ・相手意識や目的意識を明確にしてまとめさせたり表現させる
- ・自分自身の考えや新たな課題を自覚するように促す
- ・伝えるための具体的な方法を身に付けさせる
- ・各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用させる

「総合的な探究の時間」参考資料

学習指導要領以外にも様々な資料やデータを活用し、より良い探究活動を実現させましょう。

- ① 「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開(高等学校編)」 ②
令和5年3月 文部科学省 *活動事例も多く、特にお勧めです!
- ② 県立高校生学習活動コンソーシアムの取組 (神奈川県教育委員会)
- ③ 各教科等に関係する教材や資料集等のウェブサイトについて (文部科学省) ③



5章 学びの記録

1 本章を読んで感じたことや実践したいことをまとめましょう

2 本章の内容を意識しながら他の教員の授業を参観し、気付いた点を挙げましょう

3 他の教員からの助言のうち、本章の内容に関わる事柄をまとめましょう

4 本章の内容を授業に反映させるために改善すべき事柄を、具体的に挙げましょう